

～目標達成に向けた組織運営のための取組～

1 確実な業務執行

- ・業務手順や根拠法令等の確認の徹底
- ・朝ミーティング等を活用した情報共有
- ・コンプライアンス情報の共有及び事務処理ミス防止に向けた事例の共有
- ・リスクを見据えた行動計画の策定及び遂行

2 信頼される区役所

- ・接遇研修や窓口サービス満足度調査等の実施
- ・対話を通じた適切な窓口対応と窓口案内の充実（サイン整備、各課業務の相互研修など）
- ・地域支援体制の充実の検討
- ・災害発生時に自らがとるべき行動の確認と訓練の実施

3 職員が能力を発揮できる組織

- ・職場全体での業務目標等の共有
- ・仕事の進め方など業務改善の検討及び事例の共有
- ・計画的な休暇取得やフレックスタイム制度の利用促進
- ・キャリア形成支援や人材育成研修等の実施
- ・ハラスメント防止の取組推進



磯子区のマスコットキャラクター
いそっぴ

<参考>

磯子区事業評価委員会について

磯子区では、区民の皆さまや有識者の方の視点から、磯子区が行う施策や事業、サービスなどについて検証していただき、質が高く、温かみのある行政運営を効率的に推進することを目的に、磯子区事業評価委員会を設置しています。半期ごとに事業の進捗や結果に対してご意見をいただいています。

委員構成：地域代表6人、有識者1名（令和2年3月31日現在）

■令和元年度 磯子区事業評価委員会からの意見

令和元年度は、災害対策や高齢者福祉、子育て支援などを中心に、バランス良く、堅実に施策が実行されてきました。これまで大きな課題として挙げられてきたことが、解決に向けて前進したと思います。

一方で、課題も残っています。区民が安全・安心に生活できるよう、災害への対策は重要です。避難場所と地域防災拠点の違いの周知など、台風の教訓を生かしてください。また、誰もが安心して暮らすためには、自治会・町内会も大きな役割を果たしています。区役所と区民が様々な場を利用してコミュニケーションをとり、区民ニーズを吸い上げるとともに相互理解を深め、区民目線に立った行政運営をお願いします。

成果が出るまでには中長期にわたる事業もあります。短期的な視点だけでなく、中長期的な視点で、取組を継続していくことが重要です。また、マンパワーや予算などの資源に限られている中、事業を統廃合しつつ、区民や区職員の創意工夫を生かした新しくチャレンジな施策に取り組むことも重要です。施策間の連携などにより相乗効果を生み出し、従来の分野にとらわれない施策の展開を期待します。

また、地域住民に加え、企業や非営利団体、ボランティア団体、区外の組織などと連携・協働するとともに、ネットワークを形成し、取組主体がこれらの組織に移行するような施策もあると良いと思います。さらに、行政だけでなく、区民が自ら学び仲間と一緒に進めていくなど、区民が主体となって取り組むことができる地域づくりが大切です。

事業評価の仕組みは高く評価できます。事業を実施することによって何が起こり、解決したのかという視点も意識しながら、継続していただきたいと考えます。

令和2年3月



令和2年度 磯子区 運営方針

磯子区では、区民の皆さまの身近な区役所として、皆さまからご意見をいただきながら、地域と一体となって取組を進めます。

子どもからご年配の方まで、様々な世代が安心して暮らせるように、防災・減災対策、子育て支援、高齢者支援をはじめとした諸事業を推進し、笑顔があふれるまちの実現に向けて全力で取り組んでいきます。

また、基本を大切にして業務を着実・確実に実施するとともに、「おもてなしの心」で区民の皆さまに寄り添った信頼されるサービスを提供していきます。

4月には、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出され、対象地域が全都道府県に拡大されています。磯子区役所としても、総力をあげて新型コロナウイルス対策に取り組んでいきます。

令和2年5月 磯子区長 猪俣 宏幸

I 基本目標

地域の皆さまとともにつくる 笑顔あふれるまち・いそご

II 目標達成に向けた施策

○安全・安心なまち

全国各地で発生している震災・風水害の教訓や磯子区の特性を踏まえ、災害時の安否確認や自助・共助の取組への支援を実施し、総合的な災害対策の充実に継続して取り組みます。また、地域・学校・警察等と連携して、防犯や交通安全などの地域を守る取組を推進し、地域の皆さまの安全・安心な暮らしの実現を目指します。

○魅力あふれるまち

自治会町内会など地域で活躍する皆さまを支援し、地域課題にきめ細かく対応するなど、住みたい・住み続けたいまちの実現に向けた取組を推進します。また、磯子区の見どころや暮らしやすさなどの魅力を広く発信するとともに、商店街振興などにより地域経済のさらなる活性化を図ります。

○ともに支えあう暮らしやすいまち

未来を担う子どもたちを健やかに育むため、多様化する子育てニーズに対応する育児支援や、地域での子育て支援の取組を引き続き推進します。また、高齢化が進むなか、だれもが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進するとともに、健康づくりの取組を実施し、人と人とのつながりを育みながら、互いに支えあえる地域づくりを目指します。さらに、地域や関係団体等の皆さまからご意見をお聞きしながら「第4期磯子区地域福祉保健計画」の策定を進めます。

III 目標達成に向けた組織運営

1 確実な業務執行

- ・職員一人ひとりが、横浜市職員として自らの果たすべき役割と責任を自覚し、それぞれの業務を確実に遂行します。
- ・知識・技術の習得や能力の向上に努めるとともに、社会経済情勢等の変化などを察知し、仕事への影響を考え、行動します。
- ・個人情報をはじめとするあらゆる情報を適切に取り扱います。
- ・事務処理ミスなどの事件・事故等が発生した場合、組織内で迅速に共有します。また、原因を究明し、対応策を取ることで、事件・事故等の防止に努めます。

2 信頼される区役所

- ・職員一人ひとりが区役所の顔であることを意識して、責任感を持って誠実に対応します。
- ・区民の皆さまの視点に立ち、気持ちに寄り添いながら、親切・丁寧・正確・迅速に対応します。
- ・積極的に地域に出向き、課題の把握に努めるとともに、地域が主体となって行う課題解決の活動を支援します。
- ・災害や事故、非常事態に備えて日ごろから自分の取るべき行動を確認し、いざという時には区民の安全・安心を考え、迅速に行動します。

3 職員が能力を発揮できる組織

- ・多様化する区民ニーズなどに対応し、限られた経営資源の中で施策を推進していくため、業務改善や仕事の見直しに取り組みます。
- ・一人ひとりの職員が最大限の能力を発揮し、組織としてのパフォーマンスを上げることで、質の高い区民サービスにつながるよう努めます。
- ・全ての職員が、組織からの期待や自らの成長を実感し、自信とやりがいを持って業務に取り組むことができるよう、能力開発やキャリア形成に取り組みます。

～重点的に取り組む主な事業～

○安全・安心なまち

①災害時安否確認支援	・災害時安否確認ハンダナの配布と活用方法の周知 区内全戸
②地域とともに考える自助・共助	・小中学生や子育て世代など様々な世代に対する防災出前学習の実施 30回 ・家具転倒防止器具、感震ブレーカー設置の啓発、トイレパック備蓄の啓発 15回
③自治会町内会での災害に備えた要援護者支援の推進	・災害時要援護者名簿を提供する自治会町内会の拡大 10団体 ・新たに取り組を実施する自治会町内会の拡大 3団体
④地域防災拠点の支援	・地域防災拠点開設キット（運営編）の配備と活用方法の周知 区内全21拠点 ・小中学生が訓練に参加する地域防災拠点 5拠点 ・地域防災拠点訓練等における災害時ペット対策の啓発 17回
⑤風水害に対する備え	・防災士のステーションの設置 2か所 ・道路・公園などのパトロール 550回 ・避難行動の啓発、避難場所における支援の充実
⑥磯子区総合庁舎における浸水対策	・浸水想定箇所への浸水対策工事の実施
⑦交通安全対策	・子ども向け交通安全教室の実施 幼稚園・保育園：49園中33園、小学校：全校(16校) ・高齢者向け交通安全教室の実施 2回 ・大人の自転車マナー啓発 35回 ・要望を受けた通学路の要対策箇所への対応
⑧防犯活動の支援	・地域イベント・関係団体等と連携した防犯に関する啓発（特殊詐欺に係る啓発の充実） 25回
⑨管理不全空家等の対策	・管理不全空家の全数調査及び結果に基づいた指導の実施

○魅力あふれるまち

⑩地域の様々な団体が意見交換を行う場（コスモスミーティング）への支援	・コスモスミーティングの参加者アンケートで70%以上の人が「地域課題について議論できた」と回答した地区 9地区中5地区
⑪地域の課題解決に取り組む区民を支援する「いそご地域づくり塾」の実施	・地域活動の取組を行っている「いそご地域づくり塾」の受講生 累計35人
⑫自治会町内会の振興	・自治会町内会の活動支援の取組の充実（活動案内冊子や多言語版を含む加入申込書の配布、講習会の実施等）
⑬区の魅力の創出・発信	・区の魅力を伝えるプロモーションパンフレットの作成及びホームページでの発信 ・磯子まつりの開催 来場者満足度90%
⑭商店街のにぎわいづくり	・商店街朝市の開催 6回 ・商店街魅力発信イベントの実施 1回
⑮文化振興イベントの開催	・読書活動推進イベント（講演・講座等）の実施 1回
⑯ガーデンネックレス横浜と連携した「緑花」の推進	・洋光台駅前への立体花壇の設置 4月～7月 ・区庁舎前 花時計の継続設置 ・花・野菜の栽培を通じた市立保育園と民間保育園や幼稚園、地域の親子・高齢者等との交流 14回

⑰温暖化対策の啓発	・固定型ミスト装置の設置 1か所 ・移動型ミスト装置（ミストファン）を活用した啓発 10回
⑱3R夢プランの推進	・食品ロス削減の推進及び区民意識の向上のためのフードドライブ窓口の開設 ・拾ったごみの量と質でポイントを競い合うイベント（スポGOMI）の実施 1回 ・地元企業等と連携した横浜マラソン沿道清掃 1回
⑲磯子駅周辺のまちづくりの検討	・にぎわいづくりに向けた関係者との協議

○ともに支えあう暮らしやすいまち

⑲保護者の悩みに寄り添った子育て支援	・子育て支援連絡会の区内全域での開催 計8回（4エリア各2回） <怒らない子育ての推進> ・怒らない子育て紹介講座の実施 1回 ・怒らない子育てサポーター基礎講座の実施 1回 ・怒らない子育て方法実践講座の実施 1会場15人 ・怒らない子育て方法実践講座のフォローアップ講座の実施 2回計15人
⑳地域とともに取り組む児童虐待防止	・地域や保育・教育機関と連携したエリア別児童虐待防止連絡会の区内全域での開催 6エリア計14回
㉑待機児童ゼロを目指した丁寧な相談対応	・保育・教育コンシェルジュによる丁寧な相談対応や積極的な情報提供
㉒生活困窮世帯の子どもの学習支援	・高校進学に向けた「磯子べんきょう会」の開催 3か所計273回 ・高校卒業に向けた相談支援・居場所の開催 1か所46回
㉓ひきこもり等の困難を抱える若者の支援	・よこはま南部ユースプラザの就労体験プログラムの充実
㉔高齢者が自分らしく生きるための意思決定の支援	・「エンディングノート」書き方講座の受講者 500人（累計14,000人）
㉕認知症の高齢者への理解促進と地域の見守り体制づくりの推進	・認知症サポーターの養成 800人（累計18,500人）
㉖高齢者の健康づくり・介護予防の推進	・元気づくりステーションの維持・活性化の支援 26か所 ・介護予防を担う人材育成のための元気づくりステーション交流会の開催 3回
㉗地域の多様な主体による生活支援の充実、見守り・支え合いの取組の支援	・地域ケア会議など地域と行政による生活支援（買い物支援等）のための連携・協議の場の開催 15回
㉘切れ目ない医療と介護の連携と普及啓発	・在宅療養生活についての出前講座等の開催 5回
㉙磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」の推進	・スイッチON磯子事業補助金活用事業数 93事業 ・第4期磯子区地域福祉保健計画の策定
㉚障害に対する正しい理解に向けた持続的な普及啓発の促進	・区役所での区内障害者施設の自主製品販売（こすもすショップ） 12回 ・障害事業所と連携した啓発冊子の配架等PR 7回
㉛健康づくりの支援	<特定健診・がん検診啓発の実施> ・がん啓発月間（10月）の区民利用施設等での啓発 30施設 ・出張健康づくり応援隊 3か所 ・保健活動推進員による特定健診・がん検診啓発への支援 9地区 ・わくわくルートの整備（岡村天満宮前～岡村三殿台公園）
㉜空き家・空き店舗・住居の空き部屋等を活用した地域の居場所づくりへの支援	・コミュニティサロンなど地域の居場所の開設支援 2件
㉝多文化共生の推進	・全ての窓口で利用可能な音声翻訳機の配備

※ 掲載されている事業や取組については、新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合があります。